

収穫中の隣接園地に、十分に注意を払い防除して下さい。

☆不明の点がありましたら、営農指導員までお問い合わせ下さい。

果樹防除情報については県からの発生予察情報をもとに作成しておりますが、皆様におかれましても防除の際には、防除暦を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認して散布されます様をお願いします。

注意事項 展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍又はラビデン3S 10,000倍を使用する。

【 も も 】(防除暦 31~32頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100ℓ当り)		SS 散布量
16	9/1頃 極晩生種収穫直前	灰 星 病 ホ モ プ シ ス 腐 敗 病 (モモハモグリガ)(シンクイムシ類)	1. 展着剤 2. ロブラール水和剤	1,500倍 (65g)	300ℓ
		1. シンクイムシ類、モモハモグリガの発生が多い場合はノーモルト乳剤1,000倍(100cc)も使用する。但し、合ピレ剤使用規制地域では使用しないこと。【ナシヒメシンクイ重要防除時期】 2. 今回以降に収穫する品種については、オンリーワンフロアブル2,000倍(50cc)を使用する。			
17 ・ 18 ・ 19	(収穫後) 9/10頃 及び 9/25頃 及び 10/10頃 の3回	せ ん 孔 細 菌 病	1. 展着剤 2. 4-12式ボルドー液 または 1. ICボルドー412	①生石灰 (1,200g) ②硫酸銅 (400g) 30倍 (3,300g)	300ℓ
			1. 展着剤 2. ムッシュボルドーDF 3. クレフノン	500倍 (200g) 100倍 (1,000g)	
			1. 収穫中・収穫前の品種では収穫終了次第散布する。 2. 収穫が終了した園地では8月末頃から散布を開始してもよい。この場合は秋に4回の散布となる。但し、周辺に収穫中及び収穫前の他作物がある場合は飛散しないよう注意すること。 3. 周辺に収穫中及び収穫前の作物がある場合は、ムッシュボルドーDF 500倍(200g)をクレフノン 100倍(1,000g)加用で使用する。		
特別 散布	9月 上旬~下旬 (収穫後)	コ ス カ シ バ	1. トラサイドA乳剤 枝幹部への散布(手散布)	200倍 (500cc)	200ℓ
1. トラサイドA乳剤は、葉に薬液がかかると薬害が出るので注意する。(収穫中・収穫前の品種では収穫終了次第散布する。) 2. 今回散布できなかった場合は、3月下旬から4月上旬(発芽前)にトラサイドA乳剤200倍(500cc)を枝幹部へ散布する。トラサイドA乳剤の枝幹部への散布は年間1回なので注意する。					

【赤なし・青なし共通】幸水・豊水・あきづき・二十世紀・南水等 (防除暦 赤なし84頁、青なし92頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100ℓ当り)		SS 散布量
耕種的 防除	随時	シンクイムシ類	【被害果の処理】 被害果は見つけ次第摘除し、水づけにより完全に処理する。		
特別 散布	9/8日頃	シンクイムシ類 【ナシヒメシンクイ重要防除時期】	1. 展着剤 2. フェニックスフロアブル	4,000倍 (25cc)	250ℓ
		1. 中生種(豊水)以降の無袋の品種でシンクイムシ類の被害がある園地では散布する。なお、収穫が終わった園地には散布しなくて良い。 ※前回散布のスカウトフロアブルから10日以上開かないようご注意ください。			
耕種的 防除	9月下旬	ナシヒメシンクイ等	【バンド誘引】 枝幹部に麻袋や肥料袋などを厚く巻き付け、2月初め頃に取り外し処理する。		

【ぶ どう】(防除暦 129頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100ℓ当り)		SS 散布量
特別 散布	休眠期 (10月下旬頃)	ブドウトラカミキリ	1. トラサイドA乳剤 枝幹部への散布(手散布)	200倍 (500cc)	200ℓ
1. 晴天時を選んで、丁寧に散布する。 2. りんごの隣接園では薬害が生じ易いので、薬剤がかからないよう十分注意して散布する。					
落 葉 後		各 種 病 害 虫	落葉処理など園内外の清掃		
		各種病害虫の越冬密度を下げるため、園内外の落葉を集めて適切に処理する。			

※『りんご』については別紙の【りんご 防除情報9月号】をご覧ください。

【 お う と う 】 (防除暦 148頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)		SS 散布量
特別 散布	9/20頃	コ ス カ シ バ	1. トラサイドA乳剤 枝幹部への散布(手散布)	200倍 (500cc)	200ℓ
		1. トラサイドA乳剤は、葉に薬液がかかると薬害を生じるので注意して使用する。			
耕種 的 防除	10月中	ミ バ エ 類	土壌の耕うん ※ミバエ類は土壌中で越冬するので、土壌を耕うんし越冬密度を下げる。		
	落葉後	各 種 病 害 虫	落葉の処理 1. 落葉を集め土中に埋めるなど、園内外の清掃に努める。 2. 落葉後、コスカシバの多い園では虫ふんの出ているところを金づちで軽くたたいて圧殺する。		

【 か き 】 (防除暦 158頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)		SS 散布量
追加 散布	9月上旬	すす点病・落葉病 炭そ病・うどんこ病	1. 展着剤 2. ベルクート水和剤	1,500倍 (65g)	400ℓ
		1. すず点病の重要防除時期。 ただし、ベルコート水和剤は年3回:収穫14日前の使用規制があるので注意して使用する。			
落葉後 (耕種的防除)		各 種 病 害 虫	落葉の処理など園内外の清掃と土壌の耕うん		—
			1. 落葉病菌の越冬密度を下げるため園内外の落葉を丁寧に集めて適切に処理する。またアザミウマ類の越冬密度を下げるため土壌の耕うんを行うと有効である。		

【 す も も 】 (防除暦170~171頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)		SS 散布量
12	9月中旬 (収穫後)	黒 斑 病	1. ICポルドー412	30倍 (3,300g)	300ℓ
			※隣接園に注意して散布する。		
特別 散布	9月中旬～ 下旬 (収穫後)	コ ス カ シ バ	1. トラサイドA乳剤 枝幹部への散布(手散布)	200倍 (500cc)	200ℓ
			1. トラサイドA乳剤は、葉に薬液がかかると薬害を生じるので注意する。 (収穫中、収穫前の品種では収穫終了次第散布する。)		
落葉後 (耕種的防除)		各 種 病 害 虫	コスカシバの圧殺 園内外の清掃		—
			1. コスカシバの虫糞の出ているところを、金づちか木づちで軽くたたいて圧殺する。 2. 園内外の落葉を集めて適切に処理する。		

【 ネ ク タ リ ン 】 (防除暦192頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)		SS 散布量
15 ・ 16 ・ 17	9/10頃 及び 9/20頃 及び 10/10頃 の3回 (収穫終了後)	せ ん 孔 細 菌 病	1. ICポルドー412 または 1. 展着剤 2. ムッシュポルドーDF 3. クレフノン	30倍 (3,300g) 500倍 (200g) 100倍 (1,000g)	300ℓ
			1. せん孔細菌病の発生が見られた園では、翌年の伝染源となる春型枝病斑の発生を予防する為に実施する。 2. 隣接園に注意して散布すること。		
特別 散布	9月上旬～ 下旬 (収穫後)	コ ス カ シ バ	1. トラサイドA乳剤 枝幹部への散布(手散布)	200倍 (500cc)	200ℓ
			1. 葉にかからないよう注意して散布する。		
落葉後 (耕種的防除)		各 種 病 害 虫	コスカシバの圧殺 園内外の清掃		—
			1. コスカシバの虫糞の出ているところを、金づちか木づちで軽くたたいて圧殺する。 2. 残袋および落葉の処理を徹底する。		

【 う め 】 (防除暦179頁参照)

散布回数	防除時期	対象病害虫	薬剤名及び使用倍数(水100%当り)		SS 散布量
	落葉後	樹上の越冬害虫 (カイガラムシ類)	1. 機械油乳剤95	25倍 (4ℓ)	350ℓ
			1. 枝幹に寄生しているカイガラムシ類は、ワイヤーブラシなどでこすり落とす。		

※表中の日付は果樹研究所(飯坂町平野)を基準にしております。各園地との差異を考慮して、適期防除に努めてください。

★農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に混在している園地では十分注意して散布をお願い致します。また、希釈倍数・散布量・散布時期(収穫前日数)にも十分注意してください。

※各品種の出荷前(最終散布終了後)には、必ず防除日誌・栽培管理日誌を提出してください。